

## ポイントは3つ！

1. **健苗に仕上げる！伸ばしすぎには要注意**
2. **適期（5月15～20日）・適正株数で田植え**
3. **田植え後のきめ細やかな水管理で初期生育確保を！**

大型連休中は天気が周期的に変わり、気温の変化も大きくなる見込みです。

育苗ハウス等の温度管理を徹底し、太く、充実した、活着力の強い苗に仕上げましょう。

昨年は6月上旬の高温で田のワキが早まり、初期生育確保に苦労し、莖数や穂数が不足し、結果として収量にも影響がみられました。

初期生育を確保の決め手は、健苗づくり、適正田植え、保温的水管理の3点です。

適期、適正株数で田植えを行い、田植え後はきめ細やかな水管理で生育促進を図りましょう！

## 育苗後半の温度管理

- 老化苗や徒長苗では活着や分けつが遅れます。ハウス等の温度は低めに！日照は十分に！  
※特にプール育苗では苗が伸びやすいため、ハウスを開放して管理しましょう。
- 晴天で外気温が25℃以上の日は要注意！朝8時頃からハウスを開放しましょう。
- 2葉期以降は夜間も強い低温や遅霜がない限りハウスを開放し、外気に慣らしましょう。

## 水管理

- かん水は午前中1回が基本。夕方はかん水しない（地温が下がり、根張り不良のもと）
- プール育苗の入水時期は1. 5葉期から。（最初は床土の高さまで）。また2葉期以降は常時湛水し、箱上1cm程度の水深にします。  
※プール育苗で入水、落水を繰り返すと根張が劣り、育苗の終盤にムレ苗を発生した事例があります。

## ケイ酸資材の投入と、品種に応じた適正な基肥量で、 おいしいお米を生産しよう

- 近年、灌漑水により供給されるケイ酸や土壌中のケイ酸含量が低下しています。
- ケイ酸の施用は稲の光合成能力を高め、品質・食味の向上に効果が期待できます。
- ケイ酸資材も多様な種類が流通し、活用しやすくなっています。積極的に投入しましょう。

## 品種に応じた基肥量の目安

品種に応じた基肥量（窒素量）は、下表を目安に、良食味米生産に努めましょう。

表 品種別の基肥量（窒素量）の目安

品種名	はえぬき	つや姫	雪若丸	コシヒカリ	ひとめぼれ	あきたこまち
窒素成分量 (kg/10a)	5～6	3～4	4～5	3～4	4～5	5～6

## 堆肥の過剰施用は食味にマイナス

- 堆肥は、家畜の種類や原料により窒素分量が異なるので、特徴を把握して施用しましょう。  
※重量当たりの窒素分量は けいふん > 豚ふん > 牛ふん となります。

## 田植え時の留意事項

田植えの適期は5月15日～20日頃です。【つや姫・雪若丸の田植えは5月20日まで】

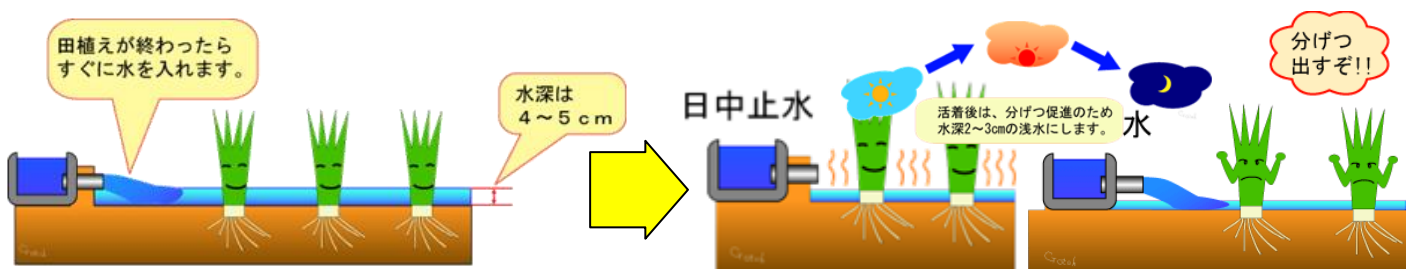
- 週間天気予報を参考に、低温や強風の日の田植えは避け、出来る限り天候の良い日を選んで行いましょう。
- 栽植密度は70株/坪、株当たり4～5本**を目安とします。 → m<sup>2</sup>当たり100本植え  
※特に「雪若丸」は初期莖数の確保が重要です。6月20日頃に500本/m<sup>2</sup>程度の莖数を確保するため、必ず、植込み100本/m<sup>2</sup>以上とします。
- 植付け深は3～4cm**を基本とします。(深植えは分けつの発生を抑制します)
- 箱施用剤や除草剤は、**ラベルを良く確認し**、間違いのないように使用しましょう。  
【箱施用粒剤と除草剤の誤使用に注意してください】  
※箱施用粒剤と間違えて除草剤(1キ口剤)を苗に散布した場合、田植後、確実に生育不良や枯死につながります。誤用に気づいたら、植付けを中止し、普及課、JA等に連絡を！

## コンタミ防止を徹底！

- 例年、圃場での品種のコンタミ(異品種の混入)が問題になっています。
- 苗の運搬時は、作業に関わる全員が、ハウス内の苗の種類や配置、田植えを行う圃場の品種を確認し、間違いの無いように十分注意しましょう。  
※補植で使用する苗についても同様に注意！

## 田植え後の水管理

田植え直後は、**4～5cm程度の水深で活着を促進**させます。活着後は、**2～3cmの浅水管理**とし、日中止水・夜間かんがいの保温的管理で、分けつの発生を促進させます。



## STOP！雑草イネ！



玄米に赤米が混入していたら、雑草イネの可能性大！  
発生ほ場は早急に対応を！

※防除対策については普及課、JAにお問い合わせください。

## STOP！農作業事故！ ～声をかけあい 助け合い 農作業ゼロへ～

○春作業はトラクター等の機械作業が多くなるので、作業前には、機械の点検、危険箇所のチェック等を行い、農作業事故ゼロ達成しましょう